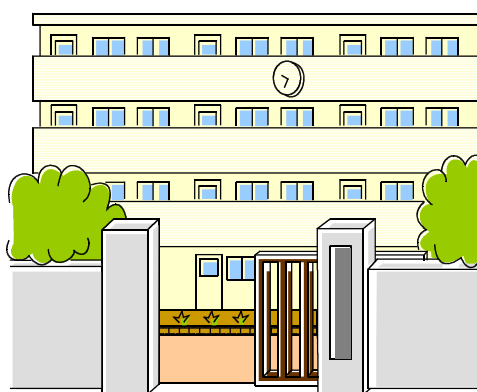


# Ⅲ 高等学校編



1 題材名「がんと共に生きる社会」 (高等学校・保健体育)

2 目標

- ・ がんについて関心をもち、学習活動に進んで取り組むことができるようにする。
- ・ 理解したことをもとに、総合的に考え、判断し、表現しながら、共生について考えを深めることができるようにする。
- ・ がんの治療方法やがん患者及び周囲の人の気持ちに沿った治療方法の選択などについて理解することができるようにする。

3 内容及び指導方針

(1) 教材の位置付け

本教材は、保健学習「生活習慣病とその予防」において、生活習慣病の一つであるがんはどのような病気か、また、がんを予防するための望ましい生活習慣とはどのようなものかを知り、さらに二次予防（がん検診等）の重要性も理解した上で、がんに関する様々な事象を、より身近な問題として捉えることができるようになることをねらいとしたものである。

(2) 指導方針

小学校及び中学校での学習を踏まえて、がんについて正しく理解することを通して、自我の確立とともに個人にかかわる事柄のみでなく、社会的な事象に対する興味・関心が広がり、自ら考え判断する能力なども身に付きつつあるという発達の段階を考慮する。その上で、個人生活や社会生活におけるがんに関する事柄に興味・関心をもち、健康と命の大切さについて主体的に考えとともに、科学的に思考・判断し、総合的にとらえることができるようにする。

4 評価規準

(1) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ がんについて関心をもち、話し合いなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ がんについて、理解したことをもとに、共生に対する自分の考えを整理し、説明している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ がんの治療方法やがん患者及び周囲の人の気持ちに沿った治療方法の選択などについて正しく理解している。</li> </ul>

(2) 単元の指導と評価の計画 (※ a : 関心・意欲・態度 b : 思考・判断 c : 知識・理解)

時	学習内容	学習活動	ねらい	a	b	c	評価規準	評価方法
1	がんの治療方法とその選択	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ がんの治療方法やその選択方法について、話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ がんについて理解し、家族の気持ちを考えながら、がんを、より身近な問題として捉えることができるようにする。</li> </ul>	◎		◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ がんの治療方法などについて正しく理解している。</li> </ul>	観察 ワークシート
	がん患者の家族の苦悩	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ がん患者の家族の苦悩について考え、話し合う。</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 話し合いに意欲的に取り組もうとしている。</li> <li>○ 理解したことをもとに、共生に対する自分の考えを整理し、説明している。</li> </ul>	観察 観察

5 展開

↓「がん教育推進のための教材 (P44～62) 参照」

時間	主な学習内容・学習活動	教材	指導上の留意点 (◆評価)
1	本時の学習内容を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ がんの治療方法とその選択</li> <li>・ がん患者の家族の気持ち</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 身近な人をがんで失っていたり、現在闘病中の家族がいたりする生徒に対して配慮する。(辛くなったら退室してよいこと等を伝える。)</li> </ul>

はじめ 10分	2 本時の学習課題を確認する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 治療方法のそれぞれに特徴があることについて簡単に触れる。</li> <li>○ 治療方法の選択には当事者の気持ちに関係することについて触れ、学習の方向付けを図る。</li> </ul>
がん患者やその家族の気持ちに沿った適切な治療方法について考えよう。			
なか 35分	<p>3 がんの治療方法について、ワークシートに記入し、グループで意見を出し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 手術療法</li> <li>② 放射線療法</li> <li>③ 化学療法</li> </ul> </div> <p>4 治療方法の選択について考え、自分の考えを整理する。</p>	<p>P 5 4 (図 1)</p> <p>P 5 6 (図 1) (図 2)</p>	<p>発問：「がん」にはどんな治療方法があるか、思いつくものを挙げてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ まず、教材を使わずに、思いつく治療方法について考えさせ、グループ内で発表させる。</li> <li>○ 特徴を問いながら教材を使って説明し、それぞれの治療方法の特徴が実感できるようにする。</li> </ul> <p>◆ 知識・理解（ワークシート） がんの治療方法などについて正しく理解している。</p> <p>発問：「がん」の治療方法はどのように決まるのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 家族の存在があることをイメージさせながら、インフォームド・コンセントやセカンド・オピニオンの意義について触れるようにする。</li> </ul> <p>発問：患者の家族はどのような苦痛を感じるのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 患者本人だけでなくその家族に対しても、苦痛を和らげるための支援が必要なことを伝える。</li> <li>○ 症状が進んでから行われるのではなく、治療と並行して行われることの意味を教材を参考にしながら考えさせる。</li> </ul> <p>◆ 関心・意欲・態度（観察） 話合いに意欲的に取り組もうとしている。</p> <p>◆ 思考・判断（観察） 理解したことをもとに、共生に対する自分の考えを整理し、説明している。</p>
まとめ 5分	7 本時の学習を振り返り、自分の考えをまとめる。		<ul style="list-style-type: none"> <li>○ がん患者やその家族の気持ちを重視し、適切に治療を行うことができる環境づくりが重要であることに着目させる。</li> <li>○ がんにかかっても、現代は「がんとともに生きる社会」であり、仕事や社会生活と並行して治療を受けることができること等を確認する。</li> </ul>

◆ 評価の（ ）は評価方法

「がんと共に生きる社会」ワークシート

( )年( )組 氏名( )

「がん」にはどんな( )があるだろう？

( )はどのように決まる？

医師は・・・

患者は・・・

このような考え方・・・

医師の診察を受けているなかで、主治医などの診断、治療方法の選択などに( )場合や、確かめたい場合などに、別の医療機関や医師などに( )を求めることを

という。

患者の( )はどんな( )を感じるのだろう？

もし自分の( )が患者になったら・・・

---

---

---

---

---

病気に伴う( )と( )の痛みを和らげるための支援

・・・

対象は患者とその( )

がんと共に生きる社会の中で

---

---

---

---

---

1 題材名 「がん患者への理解と共生」(高等学校・特別活動(LHR))

2 題材について

(1) 題材設定の理由

がんは日本の死因第1位を占める疾病であり、日本人の2人に1人が罹患するわが国の状況において、がん患者への理解を深め、共に生きることの大切さに気付くことが重要である。

また、近い将来、社会に出て行く生徒たちにとって、自分自身や家族等が直面する可能性があるがんに関して、正しく理解できるようにしたい。そして、がん患者が働きやすい社会にするために、その意義を理解し、自分の行動を判断できる力を身に付けることが大切であると考え、本題材を設定した。

(2) 学校におけるがん教育の在り方について(報告)の内容との関連

※ 「がん教育」の在り方に関する検討会：文部科学省より(P35参照)

<p>ケ がん患者への理解と共生</p> <p>がん患者は増加しているが、生存率も高まり、治る人、社会に復帰する人、病気を抱えながらも自分らしく生きる人が増えてきている。そのような人たちが、社会生活を行って行く中で、がん患者への偏見をなくし、お互いに支え合い、共に暮らしていくことが大切である。</p>
---

3 指導のねらい

- ・ がん患者への理解を深め、共に支え合うことの大切さに気付くことができるようにする。
- ・ がん患者が働きやすい社会の実現に向け、自分にできることを考えることができるようにする。

4 展開

↓「がん教育推進のための教材(P44~62)参照」

時間	主な学習内容・学習活動	教材	指導上の留意点(◆評価) (T1学級担任 T2養護教諭)
導入 5分	<p>1 本時の学習内容を確認する。</p> <p>2 本時の目標を確認する。</p>	P47 (図1)	<p>※ 保健学習後に本時を実施することが望ましい。</p> <p>○ 身近な人をがんで失っていたり、現在闘病中の家族がいたりする生徒に対して配慮する。(辛くなったら退出してよいこと等を伝える。)(T1)</p> <p>○ 教材を使って、日本人の2人に1人ががんになるわが国の状況等、基礎的な既習内容について振り返らせることで、がん患者を支える社会づくりの必要性が実感できるようにする。(T1)</p>
	<p>目標：がん患者を支える社会を築いていくためにはどうしたらよいか考えよう。</p>		
	<p>発問：「がん」にかかった人は、どんな気持ちになるのだろう。</p>		

	<p>3 がん患者の気持ちについて自分の考えを整理する。</p> <p>4 教材「命あるかぎり、あなたに伝えたい」を読み、考える。</p>	<p>P 6 2</p>	<p>○ 「自分がされてうれしいことやうれしくないこと」の視点を提示し、相手の立場に立って考えることの大切さを意識できるようにする。(T 1)</p> <p>○ 教材「命あるかぎり、あなたに伝えたい」を活用することで、がん患者や周囲の人の気持ちが具体的にイメージできるようにする。(T 1)</p> <p>◆ がん患者への理解を深め、共に支え合うことの大切さに気付いている。(観察)</p>
<p>発問：同じ職場の人が「がん」になった時、どんな関わり方をすればよいのだろう。</p>			
<p>展開 40分</p>	<p>5 同じ職場の人が患者になった時の職場の一員としての関わり方について、グループで話し合う。</p> <p>【予想される考え】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関わらない。</li> <li>・ いつも通り声をかける。</li> <li>・ どう接してよいか分からない。</li> </ul>	<p>P 5 8 資料 9 (2) (3)</p> <p>P 5 8 資料 9 (3)</p>	<p>○ 教材を使って、負担にならない範囲の気配りや復帰後にも通院が続くことを理解する必要があることを確認する。(T 1)</p> <p>○ 教材を使って、同じ職場の一員として、がんやその治療に関して、十分に理解を深める必要があることを確認する。(T 1)</p> <p>○ 仕事とがん治療を両立させるために勤務先から支援を受けたがん患者の割合が、比較的多いことを確認する。(T 2)</p> <p>○ がんの治療や検査のために定期的に通院する必要がある場合、働き続けられる環境だと思う 20 歳以上の人の割合は 3 割以下にとどまり、治療と仕事の両立が難しいと考える人が多いことを教材から確認する。(T 2)</p> <p>◆ がん患者が働きやすい社会の実現に向け自分にできることを考え、発言したり、書き出したりしている。(観察、ワークシート)</p>
<p>まとめ 5分</p>	<p>6 近い将来、職場でできることについて、自分の考えを整理する。</p>		<p>○ 罹患者数の現状から、当事者意識をもつ必要があることを伝え、近い将来の自分の姿をイメージして考えさせるようにする。</p> <p>また、学習のまとめとして自分の考えを書き残すことで、意識化を図り、実践意欲を高めることができるようにする。(T 1)</p>

◆ 評価の ( ) は評価方法